

● 当院におけるAiの取り組み

● CLINICAL REPORT ●

医療法人至誠会保利病院/九州Ai(Autopsy imaging)研究会 | 中川太樹

当院では2009年から警察依頼Aiを積極的に行ってきた。その取り組みで培われた当院でのAiに対する取り組みや意義を述べ、当院のような民間病院でもAiを受入れられる現状を報告する。

Since 2009, we have been actively performing postmortem CT(Ai-CT) requested by the police. We will describe our efforts and significance of Ai-CT at our hospital cultivated through such efforts, and report on the current situation where Ai-CT can be accepted even at private hospitals like our hospital.

● はじめに

当院がある熊本県山鹿市は、県北部に位置し福岡との県境にあり人口約5万人ほどの自然あふれる場所である(図1)。県下一の湧出量を誇り「美人の湯」と言われる良質で肌触りの良い山鹿温泉や、豊かな自然が残る山間部では、美しい景観や溪谷をはじめ栗や葡萄などの農産物の生産も盛んで好評を博している。

そんな風光明媚な地にある当院の設立は1961年で、地域に根差した総合医療を提供することを目的とした120床ほどの病院である。地域の医師との病診連携・病病連携の充実を図り“完全フィルムレス化”を当時の九州では早い時期に構築している。

2007年には国土交通省の承認を受け、ヘリポートを完備した2次救急医療の態勢を整えている。

かねてより当院の院長が当地区の警察医を受任しており「死因不明死を何とか画像診断で明らかにできないか」との意

向で2009年よりAiを行い、これまでの12年間で約450件を経験してきた。

なお当院は上級死体検案研修等を修了した担当医と診療放射線技師5名(Ai認定診療放射線技師2名)、放射線科医1名により警察依頼Aiに特化した対応をとっており2013年にはAi施設認定“A”を取得している。

● 当院のAi受け入れ体制

当院で初めて行ったAiが死後1日ほど経過していた腸管穿孔の症例である。以降、長時間CT室が大変な臭気におおわれた事は言うまでもないが、この症例を機



図1 当院の外観